

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

25 年度プレカットCAD技術者研修（1 級コース）開催

— 2、3 級コース第 2 期研修(名古屋、大阪)も開催 —

平成 25 年度プレカットCAD技術者研修（1 級コース）は、平成 26 年 3 月 3、4 日に、東京都千代田区六番町の日林協会館において、受講者 22 名の参加のもとに開催されました。

この研修は、当協会の「プレカットCAD技術者基準 1 級」に相当する内容とするため、受講資格は、①CADオペレーターとしての経験年数が 10 年程度で、平成 24 年度プレカットCAD技術者研修または平成 25 年度第 1 期プレカットCAD技術者研修（2 級コース）を受



小野講師の講義

講しており、所属事業所で、CAD部門の責任者・グループ長相当の職務に従事しているとし、また、より多くの事業所からご参加いただくため、受講者は各事業所 1 名としました。

研修内容は、テクニカルマネジメント能力を高めることを目的として、講義ばかりでなく、プレカット加工業の各種課題について考え方の発表やグループディスカッションを行ないました。また、カリキュラムは、①木材・木質構造への指導力（講師：ものづくり大学 教授 小野泰氏）、②構造・加工センターとしての能力（講師：村上木構造デザイン室 村上淳史氏）、③人材の能力向上手法（講師：ARU田口設計工房 主宰 田口隆一氏）、④顧客満足と付加価値向上（講師：(株)オプコード研究所 所長 野辺公一氏）の 4 分野について実施しました。



グループ討議

一方、平成 25 年度第 2 期プレカットCAD技術者研修（2 級、3 級コース）は、2 月 24、25 日に名古屋会場（名古屋木材会館）で 2 級コース 37 名、3 級コース 5 名の参加、2 月 26、27 日に大阪会場（大阪木材会館）で 2 級コース 34 名、3 級コース 6 名の参加で開催しました。講義終了後、受講者に研修内容をより一層理解していただくため考査を行い、2 日間の研修を締めくくりました。

平成 26 年度事業計画及び収支予算が承認される

— プレカット協会平成 25 年度第 2 回理事会 —

当協会は、3 月 12 日（水）に平成 25 年度第 2 回理事会を永田町ビル 4 階大会議室において開催しました。

理事会の冒頭、櫻井会長から、「我が国経済は、不況脱却のための大型補正予算等の対策により、経済の再生が現実のものになりつつある。昨年は、消費税増税をにらんだ駆け込み需要により新設住宅着工数は 98 万戸になった。このため、プレカット加工業は、近年にはないほど高水準の稼働が続いたが、資材不足が顕在化し、また、加工単価は横ばいで推移するなど厳しい状況が続いた。4 月以降は、着工数が減少するのは自明であるが、新たな木材利用拡大対策として中大規模木造建築物への技術的対応等への取り組み等も含めて、会員に対する業務支援、技術支援を通して、消費者から求められている木造住宅の安全・安心に応えられるプレカット部材の供給に努めていきたい。」旨のあいさつがありました。

次いで、会長が議長となって議事に入り、まず、議題 1「平成 26 年度事業計画（案）及び平成 26 年度収支予算（案）について」が事務局から説明され承認されました。引き続き、議題 2「その他」で、事務局より「平成 25 年度プレカット C A D 技術者研修の実施状況」について説明があり了承されました。また、当協会が、プレカット C A D 技術者認定を実施するために、「プレカット C A D 技術者認定実施規程（案）」についても審議が行われ、プレカット C A D 技術者研修修了者で基準点に達している方々については、申請により認定登録を実施することが承認されました。これにより、当協会では、新年度より、プレカット C A D 技術者認定の登録を開始します。

なお、今回の理事会で承認された「平成 26 年度事業計画及び平成 26 年度収支予算」は、6 月 11 日（水）に開催される第 4 回定時社員総会（会場：スクワール麴町）に報告されます。

平成 25 年度プレカット部材調査委員会開催

— 木材利用ポイント事業の影響に関心が持たれる —

当協会は、平成 25 年度プレカット部材調査委員会を平成 26 年 2 月 12 日（水）に永田町ビル 4 階会議室において開催しました。この委員会は、平成 12 年度から、部位別のプレカット部材生産の現状を把握するため、毎年、協会会員の中から地域別に代表者のご協力をいただき、会員工場において生産され、邸別に出荷されたプレカット部材（構造材、準構造材、羽柄材）について、調査物件の延べ床面積、モジュール、部材の種類ごとの樹種、断面寸法、乾燥・保存処理の有無等について調査しているものです。

今回は昨年 4 月から開始された木材利用ポイント事業の進展により国産材の使用比率が高まっている状況がみられるなかで、地域的な程度の差はあるものの、駆け込み需要による国産材の品薄傾向の顕在化もみられ、使用する資材にどのような変化がみられるか関心の持たれるところです。調査結果については、第 4 回定時社員総会の資料に添付します。

今回の調査に当たっては、次の会員工場の皆様のご協力をいただきました。ありがとうございました。
昭和木材株式会社、アールランバー有限会社、協同組合山形木造住宅プレカットシステム、
東京新宿木材市場株式会社、都築木材株式会社、大日本木材防腐株式会社、
高柴林業株式会社、山佐産業株式会社

平成25年 協会会員工場基礎調査結果について(第1回)

— プレカット用資材の材種別使用状況 —

平成25年に協会会員工場で使用した資材について、国産材、輸入材別にグリーン材、KD材、集成材等の使用割合について集計、分析を行いました。(調査工場数:39工場)

国産材

使用割合 (%)	グリーン材	KD材	集成材等
0～10	21	3	13
11～20	11	5	6
21～30	4	5	3
31～40	1	4	2
41～50	0	4	2
51～60	1	4	1
61～70	1	1	7
71～80	0	7	3
81～90	0	4	1
91～100	0	2	1
平均使用率(%)	14.2	50.8	35.0
中央値(%)	10	50	20
(平均使用率(%))	(13.0)	(58.4)	(28.8)
(中央値(%))	(10)	(70)	(15)

輸入材

使用割合 (%)	グリーン材	KD材	集成材等
0～10	32	5	2
11～20	5	5	5
21～30	1	4	6
31～40	0	3	8
41～50	0	4	5
51～60	1	8	2
61～70	0	3	4
71～80	0	4	2
81～90	0	2	1
91～100	0	1	4
平均使用率(%)	7.2	45.9	46.9
中央値(%)	5	50	40
(平均使用率(%))	(8.0)	(43.4)	(48.7)
(中央値(%))	(5)	(35)	(50)

◇簡単なコメント

国産材においては、グリーン材の平均使用率は低下傾向にあったが、今回調査は、14.2%と前回調査時(平成24年12月)に比べて1.2ポイント上昇した。KD材の平均使用率は、逆に、7.6ポイント低下し、中央値においても50%になっている。木材利用ポイント事業で国産材の需要は増加し、製品価格の上昇とともにKD材の供給が追いつかなかったことが要因と推測される。また、国産材集成材は、平均使用率が35.0%と6.2ポイント上昇し、国産材使用量の3分の1を占めるようになった。これは、前述の木材利用ポイント事業の影響と入荷が不足気味であった輸入集成材からシフトしたことが原因と推測される。

また、輸入材においては、KD材の使用率は、2.5ポイント上昇し、ベイマツ等の横架材への使用が反映しているものと思われる。しかし、集成材は需要を伸ばした国産材集成材の影響により1.8ポイント低下した。

プレカット 業況調査(平成26年2月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ（回答率：58%）

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	38	59	- 56	+ 57
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	16	33	51	- 35	- 40
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答:6,240円(対前回調査- 30円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	92	8	- 8	+ 9
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	81	16	- 13	- 3
4-1 今月の資材（製品）入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	14	67	19	- 5	- 53
4-2 3ヶ月後の資材（製品）入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	32	60	8	+ 24	- 9
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	5	30	65	- 60	+ 23
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	16	30	54	- 38	- 47

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査：平成 25 年 11 月

◇簡単なコメント

2月の各設問のDIは、3ヵ月後の資材入手状況の予測以外は、マイナスになっており、特に、受注額と収益については-50を下回り、受注環境の急激な変化が読み取れる。一方、当然のことながら、資材の入手は容易になっている。

これらの状況は、3ヵ月後においてもマイナスの程度は緩和されつつも、継続すると予測されており、早期の業況回復が待たれる。

1. 受注額のDIは-56で前回調査時（平成25年11月期）と比べて大きく後退している。駆け込み需要が終わったことが影響しているものとみられる。また、3ヵ月後の予測は、好転とした回答は16%あったものの、DIは-35で今の状況は続くと予測される。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは-8で、前回とは逆にマイナスに転じた。平均総加工単価は6,240円で3か月前に比べて30円低下したが、横ばいといえるであろう。また、3ヵ月後の製品加工単価のDIは-13で、横ばい若しくは下落基調になると予測される。
3. 資材入手状況のDIは-5で、ほぼ3ヵ月前の予測に沿うものになった。また、3ヵ月後においては+24と予測されており、入手環境は大きく軟化するものとみられる。
4. 3ヵ月前と比べた収益のDIは-60になり、前回調査時の3ヵ月後の収益予測よりも厳しい状況になっている。3ヵ月後の予測は-38であり、春の需要期とはいえ、消費税増税後の動向が大きく影響するものと推測される。